

## 県づくりにあたっての基本的な姿勢（案）について

### めざす将来像の検討の流れ

#### 1. 本県としてこれから大事にしていきたい考え方

##### (1) 本県の魅力

新しい総合計画の将来像の検討に当たっては、本県の実情に根付いたものを検討すべきであることから、本県が元々有する魅力を基礎とし、それを最大限活用できるよう、本県の魅力を再確認する。

##### (2) 時代認識

将来像の検討に当たっては、時代を超えて大事にすべきものを尊重するとともに、新たな時代の潮流への適切な対応も必要であるため、時代潮流から導き出される今後の時代で求められる考え方についての認識を正しく行う。

##### (3) 本県としてこれから大事にしていきたい考え方

本県の魅力を最大限伸ばしつつ、今後の時代で求められるものに対応するため、本県としてこれから大事にしたい考え方を整理する。

結果として、本県が元々有する魅力は、新たな時代が求めるものと合致するものが多く、これを磨き上げることが将来像を検討する上での鍵となることが判明する。

#### 2. 県づくりに当たっての基本的な姿勢

1. (3)のエッセンスを県づくりに当たっての基本的な姿勢として整理する。

#### 3. 基本目標、めざす将来像

2. を基礎として、今後、基本目標、めざす将来像を検討する。

# 「めざす将来像」の展開イメージ

## 本県の魅力

※ 本県の特徴から本県の価値（魅力）となる要素を抽出する。

- 多様性
- つながり
- ゆとり
- 安全
- 資源

## 時代認識

※ 時代潮流を踏まえて今後の時代で求められる考え方を導き出す。

- 多様性の尊重
- つなぐこと・支え合うことの重要性
- 世代を超えたつながりの必要性
- 新たなライフスタイルの広がり
- 大量生産型産業から独自性・付加価値の高い産業の育成へ
- 環境や自然と向き合う産業育成の重要性

## 本県としてこれから大事にしたい考え方

※ 本県として大事にしたい考え方（姿勢）を示す。

- 多様性の尊重
- 多様な特性をつなぐことによる新たな価値の創造
- 豊かな自然に包まれたゆとりあるライフスタイルの深化
- 地元資源の再認識・誇りの醸成・磨き上げ
- 自己実現とチャレンジ
- 次の世代につないでいくことの意識

## 県づくりにあたっての基本的な姿勢

※ 県全体で共有する、基本目標の背後にある、本県としてこれから大事にしたい考え方（姿勢）をまとめたもの

- 【魅力の再認識・磨き上げ】
- 【多様性を生かした総合力の発揮】
- 【自己実現可能な豊かな社会に向かつてのチャレンジ】

## 基本目標

県全体で共有する基本目標

※ 県づくりにあたっての基本的な姿勢をキャッチフレーズ的に示したもの

次回検討

## めざす将来像

※ 県づくりにあたっての基本的な姿勢、基本目標を受けて、県が政策的に実現を目指したい分野ごとの将来を掲げる。

※ 「いきいき」、「あんしん」、「つながり」などのキーワードを用いることや県政運営の基本方針「活力」、「安全・安心」、「思いやり」を用いることが考えられる。

「県づくりの基本方針」へ展開

## 1. 本県としてこれから大事にしたい考え方

### (1) 本県の魅力

#### 【多様性】

- それぞれに気候・風土の異なる、浜通り、中通り、会津の3地方に区分されており、特定の都市に人口や機能が集中することなく、7つの特色ある生活圏が形成されており、生活圏を結ぶ交通ネットワークが着実に整備されてきている。
- 第一次産業、第二次産業、第三次産業という産業構造、さらにその中でも業種、産品が一部に偏ることなく、バランスがとれた形となっている。

#### 【つながり】

- 現代社会において、人間関係の希薄化などによる社会問題が発生するなか、「結い」の精神など、開かれた温かい地域社会のきずなが今なお息づいている。
- 三世同居率が高さや地域コミュニティの存在などにより、世代を超えたつながりが残っている。
- 本県は、地理的に東北地方と首都圏を結ぶ結節点に位置し、整備が進む高速交通体系により、東北と首都圏を結ぶ架け橋としての重要な役割を担っている。

#### 【ゆとり】

- 3つの国立公園と1つの国定公園を始め、表情豊かな自然環境が大切に残されており、また長年の歴史・伝統に培われた特色ある生活・文化が各地域に根付いている。
- 宅地価格が安く、持ち家比率が高い。また、通勤時間が短いことに加え、生活のなかで身近に自然に触れられるなど、時間に追われない、ゆとりある生活を送ることができる。

#### 【安全】

- 阿武隈高地をはじめとして地盤が強いなど、地震による災害発生のおそれが少ない。
- しっかりとした地域コミュニティの存在を基礎として、犯罪の発生が少ない。

#### 【資源】

- 肥沃な農地と豊じょうの海を有し、米をはじめ、果実、野菜、畜産物、水産物など、豊富な食材に恵まれているとともに、広大な森林面積を有し、森林資源が豊かである。
- 会津塗等の伝統技術のほか、東北地方でも随一の製造業の集積があり、ものづくりの基盤がある。

## (2) 時代認識

人口減少、超高齢社会の到来、経済のグローバル化の進展、食料・資源・エネルギー問題の顕在化、地球温暖化問題の深刻化等の時代の潮流を踏まえて、今後本県として大事にしたい考え方を導き出す上で注目すべき事項は、次のように整理される。

### 【多様性の尊重】

- 高齢化やグローバル化、地域間交流が進行する中で、地域社会の中に多様な人たちが存在するようになる。その**多様性を互いに尊重**し合うことが求められるようになる。
- 社会の高齢化が進行する中では、**それぞれの地域が日常生活を営む上でほどよく調和のとれた規模を持ちつつ**、生き生きと維持されることが求められるようになる。また、グローバル化が進む中で、**地域が自らの独自性・優位性を保ちながら、それをアピール**することが求められるようになる。
- 経済のグローバル化は、経済の発展を生む一方で、容易に地域社会に世界経済の影響を及ぼすようになっている。その点で、**県内の産業を多様化**することに一定の価値が生じている。

### 【つなぐこと・支えあうことの重要性】

- 食料、資源・エネルギーの将来的な逼迫が予想される中、持続可能な社会を形成していくために、**互いに支え合う意識が重視**されるようになる。
- 高齢社会の進行の下、社会保障制度、生産活動、地域社会の維持等、あらゆる面で**各世代がそれぞれの役割を果たし、助け合う**必要性が増している。
- 地球規模での環境問題が深刻化する中では、都市と農村、山間地と平野部等、それぞれが**地球の生態系の中ではつながっている**ことから、**互いに様々な役割を担っていることを意識しつつ、連帯し、支え合う**ことが求められている。
- 食の安全をはじめとした**安全・安心に対する関心の高まり**、物流における**環境負荷軽減の必要性増大**等を背景として**地域内経済の循環**が求められるようになり、これは、地域経済の活性化のためにも重要な意義を有する。
- 高度情報化が進行する中では、広範囲の人々がつながることが容易になっている。これを活用しつつ、**多様な地域資源、人々の個性・能力をつなぐことにより**いかにして**新たな価値を生むか**が活力の維持のための鍵となる。

### 【世代を超えたつながりの必要性】

- 地球温暖化の進行等による環境問題の深刻化は、**次の世代に対する現在の世代の行動についての責任**を高めており、経済の環境の調和の達成が求められている。
- 人口減少社会の下では、**次の世代に対する負担を抑えつつ、効率的で効果的な社会資本の整備**を行うことが求められている。

### 【新たなライフスタイルの広がり】

- モノの豊かさよりも心の豊かさを重視する人が増えているが、人口減少、高齢社会の進行による雇用形態の変化等を通じて、今まで以上に価値観、ライフスタイルが多様化していくと考えられる。
- 生産、社会活動等、様々な場面で自己実現をしようという意識が人々の間に高まる。

### 【大量生産型産業から独自性・付加価値の高い産業の育成へ】

- 人口減少社会の下では大量生産・大量消費型の経済システムはいずれ限界を迎えるものと考えられる。そのため、生産額の増加ではなく、個別の利用者のニーズに合った、付加価値が高いものの生産により利益率を向上していくことが求められる。その際、地域に根付いた多様な技術や多様な人財は、重要な資源となる。
- 経済のグローバル化が進行するからこそ、地域ごとの製品の独自性が強く求められるようになる。
- 長寿社会においては、生涯時間が長くなり、価値観の多様化とも相まって、長く使えるもの、心に残る体験等、本当によいものが求められるようになる。

### 【環境や自然と向き合う産業育成の重要性の増大】

- 世界的な人口増加などを背景に将来的に想定されている食料逼迫のおそれを背景として、農水産物の安全で安定的な生産の確保や森林資源の有効活用の必要性が高まる。
- 地球温暖化の進行のおそれを背景として、環境保全を進める産業や自然エネルギーを利用した産業の育成、CO<sub>2</sub>吸収源としての森林の保全や局地的な水害等から国土を保全するために農地の保全の意義が高まる。

### (3) 本県としてこれから大事にしたい考え方

#### 【多様性の尊重】

- 本県がこれまで形成してきた多極分散型の県土構造を生かして、各地域の多様性を尊重して、都市部と現在の過疎・中山間地域などの周辺部が共生した、暮らしやすく、バランスのよい県づくりをさらに進めていくべきではないか。
- 地域において多様な個性・能力を持つ人々の受け入れを認める意識を持つとともに、活躍できるようにする必要があるのではないか。

#### 【多様な特性をつなぐことによる新たな価値の創造】

- 県内各地域には、そこそこ（よい塩梅で）地域資源が揃っていることから、その素材のよさ（価値）を再認識し、十分に引き出し、高め合い、各地域内や地域間で活発に交流・連携させることによって、経済循環を促し、さらなる活性化が図れるのではないか。
- 現在、国において道州制等の制度上の議論が行われているが、これに関わらず、東北圏と首都圏との結節点に位置しているという本県の地理的優位性を生かして、隣接県や首都圏に本県の魅力を積極的にアピールし、相互に交流することで、新しい魅力につなげていくべきではないか。
- 人口減少社会にあっても、各地域において、子どもから高齢者、障がい者、外国人などすべての人が安心してこれからもずっと生活していけるよう、人と人とのつながりを大切にし、お互い支え合っていくという意識が必要ではないか。

#### 【豊かな自然に包まれたゆとりあるライフスタイルの深化】

- 本県の美しい自然環境を保全するとともに、荒廃した土地を再生し、さらにより美しい姿にしていくべきではないか。
- 自分のライフスタイルに応じた楽しみ方、暮らし方ができる本県の懐の深さをさらに追求し、ライフステージに応じた柔軟な暮らし方ができるようにしていくべきではないか。
- 本県は、生活のなかで身近に自然や地域社会における人と人とのつながりを感じることができることから、子どもの頃からそれらに触れることにより、温かな県民性を育んでいくべきではないか。

#### 【地元資源の再認識・誇りの醸成・磨き上げ】

- 県民一人ひとりが自らの住む地域を見つめ直し、温かな地域コミュニティ、長年の歴史・伝統に支えられた多様な文化、豊かな自然環境、豊富な食材を産み出す農林水産業等、その素晴らしい点を再認識する中で、地域に対する自信、誇りや愛情を持つべきではないか。
- これまで継承してきた本県のものづくりの技を生かして、見せかけ、使い捨てのものではなく、それら「ホンモノ」を最新の技術も駆使しながら徹底的に磨き上げていくべきではないか。

### 【自己実現とチャレンジ】

- 県民一人ひとりが、地域活動、就労、文化、スポーツ等様々な場面で**自己実現を図ることができる社会**を目指すべきではないか。
- お互いを尊重し、信頼関係を築きながら様々な課題に**果敢にチャレンジ**していくことが大切ではないか。

### 【次の世代につないでいくことの意識】

- 私たち、現在の世代は、自らの世代のことを考えるだけでなく、次の世代のことを考えて、豊かな自然、地域コミュニティ・文化、産業基盤など**本県が有する宝を、私たちが引き継いだ時よりも、損なうことなく、より偉大に、より良く、そしてより美しくして、次の世代に継承すべき**ではないか。

## 4. 県づくりにあたっての基本的な姿勢

### 【魅力の再認識・磨き上げ】

急激に変化する時代の中にあっても、先人から受け継いできた本県のすばらしい魅力を再認識し、その魅力を最大限に引き出すとともに、これを磨き上げ、積極的に活用するとともに、次の世代によりよい姿で引き継いでいく。

### 【多様性を生かした総合力の発揮】

本県に存在する変化に富んだ気候・風土・自然環境、多彩な歴史・文化、バランスのとれた産業構造等、多様な素材を活用しながら、将来にわたって安定した総合力の高い県づくりを着実に進める。

### 【自己実現可能な豊かな社会に向かったのチャレンジ】

県民一人ひとりが互いを尊重し合いながら、あまねく自己実現を図ることが可能であって、精神的にも物質的にも豊かさを味わうことができる社会を目指して、未来に向かってチャレンジする。